

報告事例番号2

吾妻2:長野原係

吾妻西部地域における主要高原 野菜の持続的生産技術の推進

計画年度:平成30年度～令和2年度

令和2年10月20日

吾妻農業事務所普及指導課

課題設定の背景及び理由

1 背景

- (1) 吾妻西部地域は1970年から50年連続で日本一の出荷量を誇る「夏秋キャベツ」の産地。夏秋キャベツの62%を占めるため、常に安定供給が求められている。

2 理由

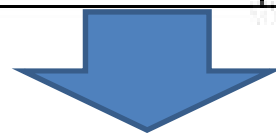
- (1) コナガ等の害虫被害への対応
(2) 環境(農地)保全への対応
→ 嬬恋村では傾斜ほ場が多く
強い降雨で表土流亡が起きている



傾斜ほ場での表土流亡状況

目標年次のビジョン

項目\年次目標	平成29年度 (現状)	H30	R 1	R 2
京浜市場品質検査 での虫害発生数	2	0	0	0
緑肥作付け面積 (ha)	360	380	415	450
グリーンベルト設 置割合(%)	60.1	61	61	62



高原野菜の安定生産と産地ブランド力強化

主な推進課題

1 コナガ等の防除対策の推進

- (1) 薬剤感受性調査
- (2) コナガ発生数の調査
- (3) 性フェロモン剤の検討



2 表土流亡対策技術の推進

- (1) キャベツ収穫後の緑肥の作付け
- (2) グリーンベルトの設置

主な推進課題と解決手法

1 コナガ等の防除対策の推進

○防除をしているのに被害が減らない

→コナガは薬剤抵抗性が発達しやすい

→薬剤の効果が低下？



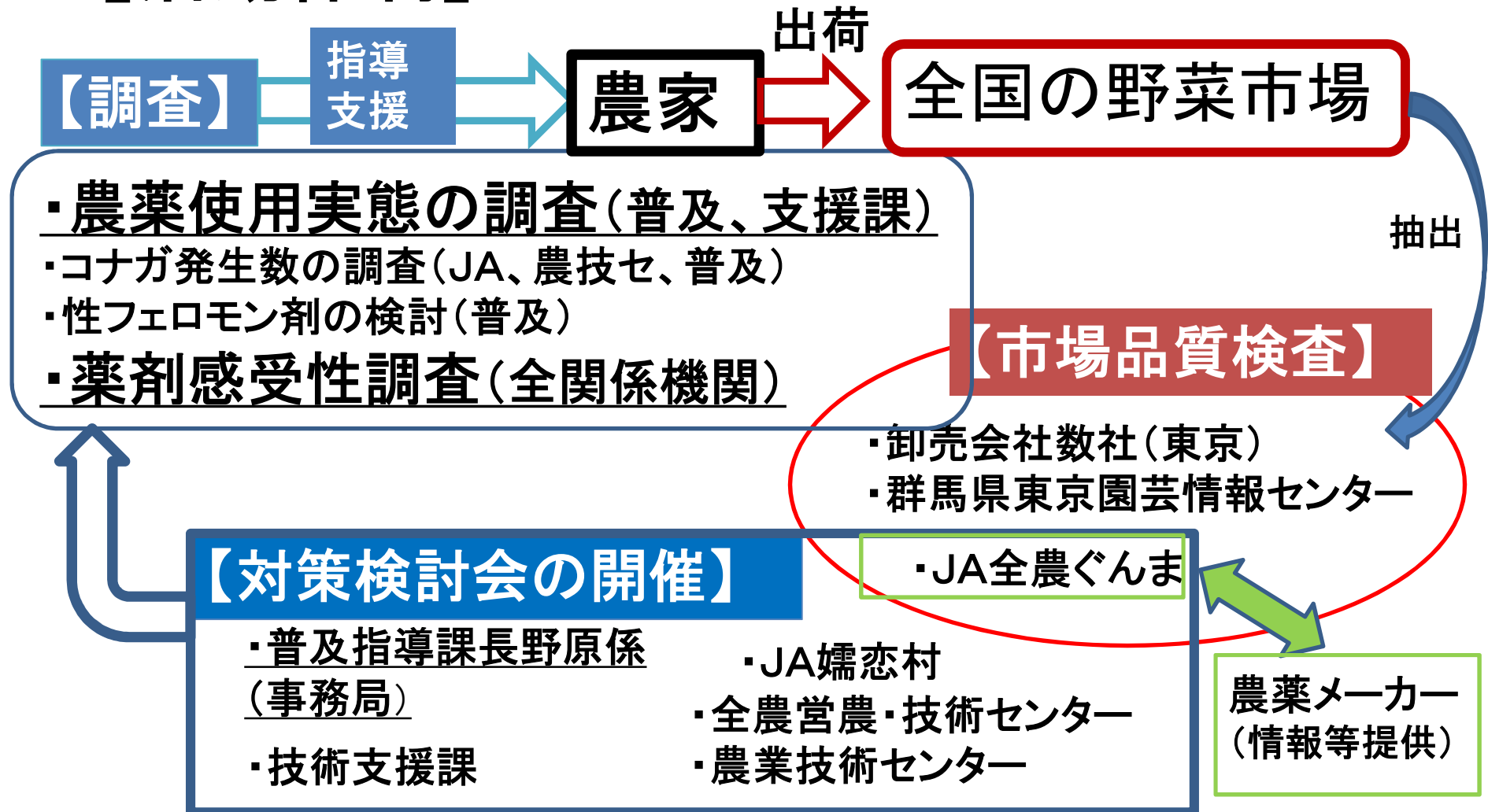
コナガの食害



コナガの成虫
と幼虫

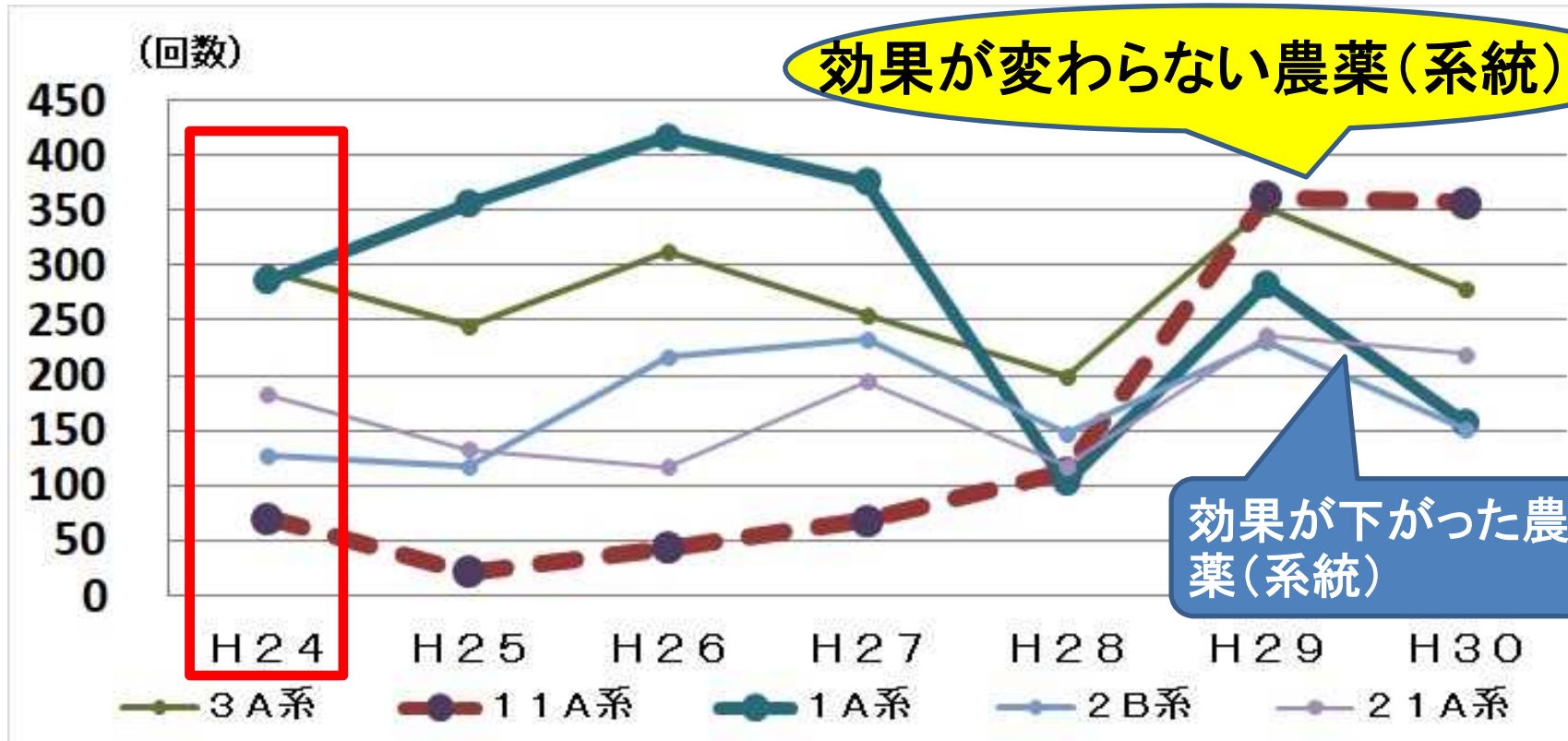
活動経過及び結果

【活動体制】



活動経過及び結果

○農薬散布回数と殺虫効果を比較



孺恋村の殺虫剤(系統)散布回数の推移

活動経過及び結果

孺恋村内での
キャベツの
主要地区

○調査対象地区

田代地区、大笹地区、長井地区、
仙之入地区、干俣地区

○薬剤感受性調査を8, 9月に確認



「収穫後のほ場」からコナガの幼虫を採集



薬剤に浸漬したキャベツ
の上でコナガの幼虫を
放って、生死を確認。

活動経過及び結果

○京浜市場キャベツ品質検査結果



主な推進課題

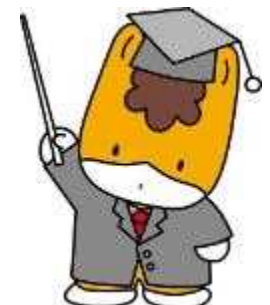
1 コナガ等の防除対策の推進

- (1) 薬剤感受性調査
- (2) コナガ発生数の調査
- (3) 性フェロモン剤の検討



2 表土流亡対策技術の推進

- (1) キャベツ収穫後の緑肥の作付け
- (2) グリーンベルトの設置



主な推進課題

1 傾斜ほ場での土壌の流亡状況



小玉になりやすい
(斜面の上部～中部で発生)



縁腐れ症状 (斜面の
上部～中部で発生)



排水不良による根腐
れ (斜面下部で発生)

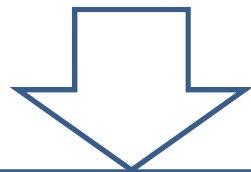
主な推進課題と解決手法

(1) キャベツ収穫後の緑肥の作付け

なにも作っていない「ほ場」では土の流亡が
おこりやすくなる

孺恋村環境保全型農業推進協議会

○グリーンベルトの種
子代補助、啓発・指導



村内キャベツ農家

構成団体

- ・孺恋村役場（議会含む）
- ・JA孺恋村
- ・各地区出荷組合
- ・吾妻農業事務所普及指導課
- ・高冷地野菜研究センター
- ・孺恋村土地改良区

主な推進課題と解決手法

(2) グリーンベルトの設置

傾斜ほ場の下に牧草を2メートル以上の幅で栽培することで、ほ場の外へ土が出ることを軽減する



主な推進課題と解決手法

2 表土流亡対策技術の推進

国・県営農地開発事業
(S45～H13)
31年間で1,100ha造成



表土流亡注意ほ場の
マップ化(右図)
(H13頃)



グリーンベルト(牧草
帯)の設置推進

- ・赤: 重点推進地区
- ・黄色: 推進地区

第2次グリーンベルト
推進計画



活動経過及び結果

①農家等への啓発

- ・JA孺恋村・あがつま講習会・広報誌(H29年～)
- ・土壌断面標本の作製協力(H30年)

土壌断面標本・・・ほ場を1畝以上垂直に掘って、その姿のまま標本にしたもの

土壌断面標本を作成している様子



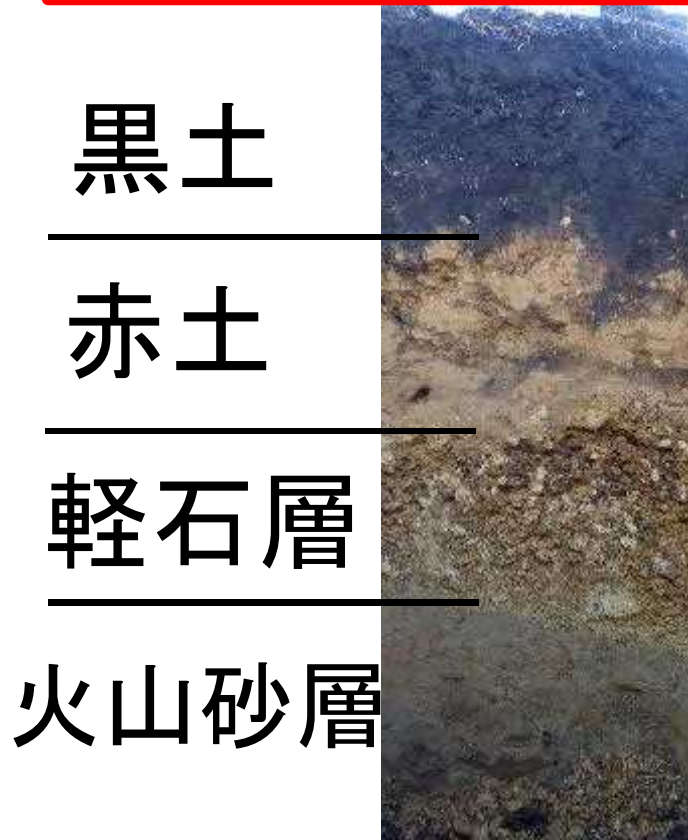
土壌断面標本の展示(JA営農課)



活動経過及び結果

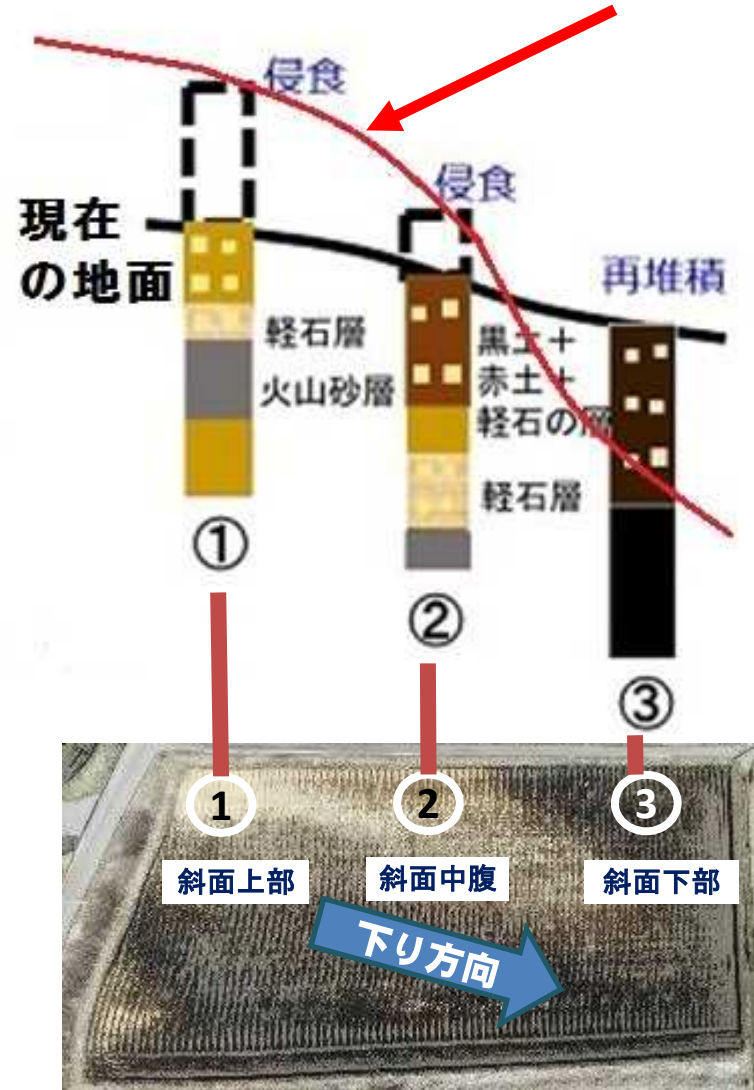
①対策リーフレット(R元年)による農家等への啓発

孺恋村の土壌断面標本



対策リーフレットから抜粋

元々の地面は赤線の部分



活動経過及び結果

○近年、最大の気象災害
台風19号の被害(2019年
10月10日)



大量の土砂と
一緒にキャベ
ツが押し流さ
れた(赤枠内)。

道路の崩壊



大量の土砂が舗装道路上へ流れ出た



活動経過及び結果

①農家等への啓発

・表土流亡軽減対策研修会の実施(令和元年)



この写真が村役場、農協を動かした！

令和2年度の孺恋村環境保全型農業の方針・・・
緑肥を推進する！

緑肥(エン麦)導入で
流亡を防いでいる

裸地だったため土
壌が流亡している
(赤枠)



活動経過及び結果

実績とりまとめ中

	H29 (現状)	H30		R1		R2	
		目標	実績	目標	実績	目標	実績
京浜市場品質検査 での虫害発生数	2	0	2	0	0	0	
緑肥作付け面積 (ha)	360	380	505	415	386	450	
グリーンベルト設 置割合(%)	60.1	61	59.9	61	59.5	62	

- * グリーンベルト設置対象面積(ha)
(第2次国営事業+牧草地を除いた
ほ場面積) 約2,319ha(R1年)
- * グリーンベルト設置ほ場面積(ha)
約1,380ha(R1年)

原因: 緑肥播種時期
に雨天が続いた

今後の対応

1 コナガ等の防除対策の推進

- (1) 地区毎に薬剤感受性検定の実施
- (2) コナガの発生状況調査
(長野原町、孺恋村)

2 表土流亡対策技術の啓発

- (1) キャベツ作付け後の緑肥栽培の普及
→ 緑肥種子代の補助(協議会)
- (2) 啓発資料(手引き)の作成(農業事務所)